

令和8(2026)年度
4月計画

運営に関する計画



大阪市立 住吉 中学校

大阪府立住吉中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

I 学校運営の中期目標

現状と課題

本校に通う多くの生徒は、教職員の適切な指導・支援により、「ルールを守って学校生活を楽しく過ごしたい」等、規範意識を高めながら明るい雰囲気の中で学校生活を送ることができている。これは、過去にPTAや地域の方々が学校運営の正常化に向けて惜しみない支援を続けてくださった結果であり、その積み重ねを忘れてはならない。

学力面においては、学年集団によって差はあるものの、大阪市・大阪府の平均よりやや高く、全国平均レベルの学力で推移している。これは、漢字の書き取りや計算問題などの基礎学力の定着に取り組んできたことや、グループワークによる課題解決型の学習が一定の成果を上げているからと考えられる。一方で、教科によっては高得点層と低得点層の二極化が見られ、特に低得点層から中間層への学力の底上げに向けた支援の工夫が求められる。

生活面においては、現時点では落ち着いた様子が見られるものの、複雑な家庭環境を抱える生徒や、SNS等の表面的な関係しか築けない生徒、小学生の時から不登校である生徒など、教育的ニーズが多様化している。さらに、自己肯定感が低下し、学校生活が意欲的にできない生徒もいることから、「最後まで粘り強く取り組む力」や「周りと協力できる力」等、非認知能力の育成が求められる。その成果をあげるためにも、教職員は、生徒の「何ができたか」のみならず「どう取り組んだか」に光をあてなければならない。

世界全体が急速に変化する中、生徒が多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となるよう、これまで大切にしてきた人権総合学習を学びの土台とし、生徒が自分の生活や地域社会に目を向け、課題を整理し、話し合い、考えて行動できる力を育てていきたい。その一環として、防災教育をさらに充実させるとともに、SNSで加害者にも被害者にもならないための情報モラル教育にも力を入れ、生徒が安心して社会とつながれる力を身につけられるよう取り組みを進めていく。

また、本校では教職員の大幅な入れ替わりにより、長年にわたり推進してきた教育活動の発展・継承に不安もある。しかし、この状況を前向きに捉え、教職員が生徒のニーズに合った教育活動の展開を最優先に考え、生徒・教職員・地域の方々等、すべての人が笑顔になれる学校づくりをめざしたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和11年度の年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和11年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和11年度末の校内調査において、生徒1,000人当たりに対する暴力行為発生件数を3件以下(本校であれば年間1件以下)にする。
- 令和11年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和11年度の中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01 ㊦以上向上させる。
- 令和11年度の中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01 ㊦以上向上させる。
- 令和11年度の大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を65%以上にする。
- 令和11年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1 ㊦以上向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和11年度の年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和11年度の時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教員をゼロにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。(前年度:87.1%)
- 年度末の校内調査において、生徒1,000人当たりに対する暴力行為発生件数を3件以下(本校であれば年間1件以下)にする。(前年度:1件)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(前年度:4.5%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01 ㊦以上向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01 ㊦以上向上させる。
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を50.0%以上にする。(前年度:69.7%)
- 年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。
- 年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 今年度末の時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教員の割合を10%以下にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立住吉中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○年度目標アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。(前年度:87.1%) ○年度末の校内調査において、生徒1,000人当たりに対する暴力行為発生件数を3件以下(本校であれば年間1件以下)にする。(前年度:1件) ○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(前年度:4.5%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 全校集会や学年集会の場で、学校のきまりや規則についての話をしたり、生徒会集会で生徒から注意喚起を行ったりして意識付けをする。また、各生徒専門委員会から主体的な取組を組織する。(生活指導部)	
指標 生徒アンケート「学校のルールを守っていますか」に対して、肯定的な「そう思う」に回答する生徒の割合を90%以上とする。(前年度99%)	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 自立的な生活習慣や健康と美化に対する意識を高める。(健康教育部)	
指標 生徒アンケート「清掃活動や学校生活全般で、校内美化に努めている」に対して、肯定的な「そう思う(どちらかと言えばそう思う)」に回答する生徒の割合を90%以上とする。(前年度93%)	
取組内容③【2 豊かな心の育成】 「共に学び、共に育ち、共に生きる」インクルーシブ教育を推進する。(共生教育)	
指標 個別の教育支援計画を作成し、年2回以上の検討会を実施する。また、障がい理解する教育や共生教育を各学年1回以上実施する。(前年度2回)	
取組内容④【2 豊かな心の育成】 自己肯定感を育む系統的なキャリア教育や進路指導を充実させる。(教務部・進路指導)	
指標 生徒アンケート「自分の将来や進路や生き方について考える機会がある」に対して、肯定的な「そう思う(どちらかと言えばそう思う)」に回答する生徒の割合を85%以上とする。(前年度93%)	

<p>取組内容⑤【2 豊かな心の育成】 人権教育年間指導計画に基づき教育実践を行い、人権感覚豊かな生徒（集団）の育成に努める。（地域連携係）</p>	
<p>指標 生徒アンケート「まわりの仲間を大切に思っている」と「自分自身のことを大切に思っている」に対して、肯定的な「そう思う（どちらかと言えばそう思う）」に回答する生徒の割合を90%以上とする。（「まわりの仲間を大切に思っている」は前年度98% 「自分自身のことを大切に思っている」は前年度95% ）</p>	
<p>取組内容⑥【2 豊かな心の育成】 多文化共生教育を推進する。（国際理解教育係）</p>	
<p>指標 国際理解教育としての総合学習の場を設ける。平和学習や、国際理解教育を各学年で年2回以上行う。（前年度2回）</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪府立 住吉中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○中学生チャレンジテストにおける、国語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01 ㊦以上向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける、数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01 ㊦以上向上させる。 ○大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合を50.0%以上にする。(前年度:69.7%) ○年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。 ○年度目標アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 少人数別授業・習熟度別授業・TT などにより基礎基本の定着に取り組むとともに、授業研究や相互授業参観などを実施し、指導力向上に努める。(教務部)	
指標 生徒アンケート「授業はよく理解できる」に対して、肯定的な「そう思う(どちらかと言えばそう思う)」に回答する生徒の割合を80%以上にする。(前年度90%)	
取組内容②【4 国際社会において生き抜く力の育成】 豊かなコミュニケーション能力を身に付けるために、英語教育の充実を図る。(教務部・英語科)	
指標 英語検定3級以上程度の生徒の割合を、3年生においては50%以上、2年生においては20%以上、1年生においては10%以上とする。	
取組内容③【8 生涯学習の支援】 大阪府内にある人権・歴史・平和・文化などをテーマとした施設を訪問し、郷土大阪を学び、深める取組を行う。(地域連携係)	
指標 1年生で人権施設、2年生で歴史・平和・文化施設のフィールドワークを年1回以上実施し、3年生の修学旅行では平和学習を含む人権学習に取り組む。(前年度各学年1回)	

<p>取組内容④【5 健やかな体の育成】</p> <p>運動に対する苦手意識を克服し、積極的に体力づくりに取り組む生徒をめざし、授業の工夫と部活動への積極的な参加を促す。(生活指導部・保健体育科)</p>	
<p>指標 全国体力・運動能力、運動習慣調査における運動能力の種目について、全国平均比1.01以上とする。(前年度 0.90)</p>	
<p>取組内容⑤【5 健やかな体の育成】</p> <p>食に関する指導に取り組み、心身の成長や健康の保持増進の上で、望ましい栄養や食事のとり方を学び、自ら管理していく能力を高める。(健康教育部)</p>	
<p>指標 生徒アンケート「朝食を食べている」に対して、肯定的な「そう思う(どちらかと言えばそう思う)」に回答する生徒の割合を90%以上にする。(前年度 90%)</p>	
<p>取組内容⑥【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>学習の習慣化や学習意欲の持続をめざし、学校元気アップ事業を活用し、自主学習会や長期休業中の補充学習会を行う。(教務部)</p>	
<p>指標 定期テスト前の自主学習会の実施。また、長期休業中の補充学習会を合わせて20時間以上実施する。(前年度 20時間)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪府立住吉中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○年度目標アンケートにおける「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>○今年度末の時間外勤務時間について、月100時間以上実施する教員の割合を10%以下にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>学習者用端末の環境を生かし、生徒の心の状態や日々の生活の状況を可視化、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応ができるよう取り組む。(教務部)</p> <p>指標 授業日においては、学習者用端末を活用する割合が70%以上にする。</p>	
<p>取組内容②【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>ICT機器を活用し、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用することで子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びに取り組む。(授業改善推進委員会)</p> <p>指標 授業プリントや事前学習用の動画等、各教科における授業教材の50%以上を学習者用端末の活用により学習できるよう準備する。</p>	
<p>取組内容③【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>授業研究や相互授業参観などを実施し、指導力向上に努める。(教務部)</p> <p>指標 教員全員の年1回以上の公開授業と年3回以上の校内研究授業・協議を行う。 (前年度 全教員:1回 研究授業・協議:3クラス×2回)</p>	
<p>取組内容④【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に基づき、「仕事と生活の両立支援プラン」等も踏まえ教員が働きやすい環境を整えるように努める。(主任会)</p> <p>指標 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にするとともに、授業を4限までとする「ゆとりの日」を学期に1回以上実施し、時間外勤務実績の削減に努める。 (前年度 有給休暇取得:97.1% ゆとりの日:8回)</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

次年度への改善点